

白山ふるさと文学賞

第十三回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年 小説の部 優秀賞

「見えない大切なもの」

石川小学校五年

栗谷^{あわたに}

旭陽^{あさひ}

学校は夏休み。今日も僕は弟を連れて、家から歩いて5分ほどの公園にいる。公園はかなり広くて、植物も多い。春には桜やツツジ、藤の花が順番に咲き、夏には桜や藤の葉が陰をつくってくれる。それに、盛り土で斜めになってる滑り台、きれいな小川も流れていて、僕にとって最高の場所。ちなみに、この辺りは、七ヶ用水が引かれ、この小川もそこから分水しているらしい。学校の社会の授業でその名を知ったが、何故だかこの用水の言葉のリズムが気に入っている。

何よりも嬉しいのは虫がたくさんいること。保育園の時から、園庭にいるダンゴ虫を見つけて家に持ち帰り、オスとメスを見分ける僕を、家族は、

「すごいー！」

と絶賛してくれた。今は小学4年生。ダンゴ虫を探すことはしなくなったが、虫取り網を持って、セミやバッタを追いかける。幸いにも、弟も興味があるらしい。ただし、なぜか僕よりも冷静で、網を置く位置も的確だ。今日は、セミ3匹とトノサマバッタ5匹捕ったので、とりあえず家に帰ることにした。帽子をかぶっていても、暑くてヘトヘトになった。

家ではおじいちゃんが、スイカを切って待っていてくれた。とても冷たくておいしかった。お腹いっぱいになり、いつの間にか畳の上で弟と寝てしまったようだ。

「ただいまあ。」

お母さんの少し疲れた声で目が覚めた。

「今日の分の宿題は終わったの？カズちゃんのお勉強も見てあげた？」

そうだった。弟の今日の算数は時計。時間の単位が特に解りにくいらしい。1日24時間、1時間60分。なんだけど、解りにくいらしい。僕ははどうだったか、それさえ忘れてしまったが、あまり苦勞した感覚がない。でも、お母さんは、

「みんな同時に理解できる訳ではないと思うよ。算数が好きな子もいれば、嫌いな子、苦手な子も大勢いるから。特に時計はね。だから、見てあげて。」

そうは言っても、教えるって簡単ではないよね。

「1日は24時間、1時間は60分覚えて。」

って言っても返ってくる言葉は、

「何で？」

教えるって難しい。僕のほうが頭をかかえてしまった。好きなアニメ映画で「時間」の感覚と単位を教えることにしよう。

次の日、昨日の課題を実行に移し、弟とアニメ映画を見ながら、時間とその単位を教えてみた。時計の針の長針を示しながら「分」の意味を伝え、その間に短針の「時」の針も動く事を伝え、意外にもあっさり理解出来た。アニメで楽しみながら出来たのでとても良かった。僕も自分の勉強を終えて、又いつもの公園へ遊びに行くことにした。

公園の空気は気持ちが良い。気温が30度をわずかに超えているはずだが、呼吸がしやすい。特に、木陰が良い。おじいちゃんは、植物や樹木には、とても大きな力があると云っていた。人や動物が呼吸をする時や、自動車の排気ガス等で二酸化炭素が空気中に排出される。それを植物や樹木が、太陽の光を浴びることで吸収し、酸素を大気中に排出する。その酸素を含んだ空気を吸って僕たちは生きている。だから、植物や樹木のあるところは気持ちが良いのか。とてつもなく大切な役割を担っている。その二酸化炭素が、高濃度になると、地球温暖化へと加速する。毎日見ている昆虫も、酸素が無かったら死んでしまうし、今日見ているカマキリも、僕が大人になった時、その姿をどうしているのかも不明だと思う。

いつしか僕は植物や樹木、この地球を構成するものに関心を持つようになった。守りたいと思うようになった。

ある時、アクアリウムの水生動物の葉先から、水玉をゆっくり放出する姿を見て、これが酸素だと初めて認識した。水槽の中で、それはとても美しかった。大切なものの真ただ中においても、目に見えないからと、それと気付かず過ごしている。いや、本当はうまく言葉で表現できないけど、解っているような気がする。その答えを探すために勉強しようと決心した。

あれから十四年後の今、何度実験しても期待通りの結果が出てこない。今日も試験管の水はにごっている。化学的に汚染された水がどんな植物で清浄になるのか繰り返し研究している。

今日も実験は失敗した。でもその失敗はいつか成功するために必要なことかも知れない。何かを見落としているのかも知れない。そう考えながら、今日の結果を記録していると、

「一緒に帰ろうぜ。ご飯でも食べようよ。君の弟もさそってき。」
と同期が呼びに来ていた。要領が良く、意外としっかり者の弟は、僕が大変な努力をして入学した大学に、わりとスンナリ合格し、今は大学四年生になった。

このキャンパスにも、桜やツツジが植わっている。青々と茂った葉っぱからは、酸素が放出されているはずだ。いつか僕の研究も温暖化防止の役に立ち、青く浮かぶ地球を守ることができるようだろうか。長い道のりを歩みだしたばかりの僕にも…。

